

浜通り地域等の産業基盤を構築する国家プロジェクト

福島イノベーション・ コースト構想

FUKUSHIMA
INNOVATION
COAST
FRAMEWORK



廃炉



ロボット・
ドローン



エネルギー・
環境・
リサイクル



農林水産業



医療関連



航空宇宙

つど つく かな
集う、創る、叶える、ふくしまで。



福島イノベ機構

福島イノベーション・コースト構想 主要プロジェクト

「福島イノベーション・コースト構想」とは、東日本大震災及び原子力災害によって失われた浜通り地域等の産業を回復するために、新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクトです。

プロジェクト 1

→詳しくは3~4ページへ



国内外の英知を結集した
技術開発

廃 炉



廃炉作業などに必要な実証試験を実施する「楡葉遠隔技術開発センター」(楡葉町)



廃炉に向けた研究開発・人材育成を行う「廃炉環境国際共同研究センター」(富岡町)



放射性廃棄物の処理・処分に向けた分析研究を担う「大熊分析・研究センター」(大熊町)

プロジェクト 2

→詳しくは5~8ページへ



福島ロボットテストフィールドを中核に
ロボット産業を集積

ロボット・ドローン



陸・海・空のフィールドロボットの使用環境を再現した福島ロボットテストフィールド(南相馬市・浪江町)



ロボット・ドローンの実証試験や操縦訓練の場として、浜通り各地を仲介

プロジェクト 3

→詳しくは9~10ページへ



先進的な再生可能エネルギー・リサイクル技術の確立へ

エネルギー・ 環境・リサイクル



浜通り地域等全体において、再生可能エネルギーの計画的かつ円滑な導入促進を図るとともに、太陽光発電や風力発電が連系する共用送電線を整備して再生可能エネルギーの導入を加速化



燃料電池スクールバス(浪江町)

プロジェクト 4

→詳しくは11~12ページへ



ICTやロボット技術等を活用した
農林水産業の再生

農林水産業



機械化によるタマネギ直播栽培



漁業資源量把握の調査

プロジェクト 5

→詳しくは13~14ページへ



技術開発支援を通じ
企業の販路を開拓

医療関連



浜通り地域等の企業等への技術移転やコンサルティング支援等により医薬品関連産業の集積を目指す「医療・産業トランスレーショナルリサーチセンター」(福島市)



医療機器の開発から事業化までを一体的に支援する国内初の施設「ふくしま医療機器開発支援センター」(郡山市)

プロジェクト 6

→詳しくは15~16ページへ



次世代航空モビリティ、ロボットの開発や
関連企業の競争力強化

航空宇宙



航空宇宙関連産業の技術交流や商談、普及啓発を目的に開催している「航空宇宙フェスタふくしま」



パリ・エアショーは2年に1度パリで開催される航空宇宙業界世界最大規模を誇る見本市

福島イノベーション・コースト構想の実現に向けて

廃炉、ロボット・ドローン、エネルギー・環境・リサイクル、農林水産業、医療関連、航空宇宙の各分野の具体化を進めるとともに、その実現に向けた産業集積や人材育成、交流人口の拡大、情報発信など多岐にわたる環境整備に取り組んでいます。

3つの柱

あらゆる
チャレンジが
可能な地域

地域の
企業が主役

構想を支える
人材育成

実現に向けた取組 1

→詳しくは17~20ページへ



企業誘致と地域内外企業の
マッチングを推進
産業集積



異業種間の連携等による新事業の創出や取引の拡大を目指して設立した「福島イノベ倶楽部」



全国随一の優遇制度や立地環境をPRするための企業立地セミナー、現地視察ツアーを実施



実現に向けた取組 2

→詳しくは21~24ページへ



浜通り地域等の未来を担う若い力を育てる
教育・人材育成

小中学校



梅檀（せんだん）祭で、双葉町の伝統芸能である「標葉（しねは）せんだん太鼓」を演奏する児童・生徒たち（双葉南・双葉北小学校、双葉中学校）

高校



スクラッチ系のプログラミング言語を使ってドローンの自動操縦を学習する生徒たち（平工業高等学校）

大学



脱炭素スマート農業に適した作物品種（在来品種含むイネ180品種サンプリング）の実践的なフィールド研究に励む学生たち（東京農工大学）

実現に向けた取組 3

→詳しくは25~26ページへ



構想に共感する人々の輪を広げる
交流人口の拡大



首都圏等の人々と一緒に、イノベ地域の畑において農業体験と名産品の開発を実施



12市町村と連携して移住情報（「知る」「働く」「起業する」等）の発信、体験ツアー等を実施する「ふくしま12市町村移住支援センター」

実現に向けた取組 4

→詳しくは27~30ページへ



震災と原子力災害の事実や教訓、構想の認知度アップで参画を促進
情報発信



地震、津波、原発事故という複合災害の記録と教訓を収集・保存・研究し、展示や研修、語り部講話を通じて発信する「東日本大震災・原子力災害伝承館」



福島イノベ構想の進捗状況を知っていただき、今後の取組の方向性について共に考える場としてシンポジウムを年1回開催



廃炉

DECOMMISSIONING

浜通り地域等の復興に必要な廃炉を進めるため、国内外の英知を結集し、研究開発と人材育成を進めるとともに、取組の効果を産業面にも波及させ、浜通り地域等に産業の集積を図ります。



原子炉建屋内部に存在する様々な環境を模擬した試験を行う

JAEA 楢葉遠隔技術開発センター (NARREC/楢葉町)

NARRECは、福島第一原子力発電所（1F）の廃炉推進のために整備された施設で、試験棟にはモーションキャプチャやモックアップ階段、試験用水槽などロボットの性能評価や操作訓練を行うことができる様々な設備を備えています。また、実規模試験エリアでは1Fに存在する設備をフルスケールで設置することができ、実際の作業現場を想定した試験や訓練が実施されています。[背景は試験棟（幅60m×奥行80m×高さ40m）内部です]

廃炉を進めるための分析を行う

JAEA 大熊分析・研究センター (大熊町)

放射性物質分析・研究施設第1棟は、事故で発生したガレキ類等の分析を行う施設です。また、海洋放出前のALPS処理水の第三者分析を実施しています。燃料デブリ等の分析を行う第2棟は、現在建設に向けた準備を進めています。



国内外の英知を結集する拠点

JAEA 廃炉環境国際共同研究センター (CLADS/富岡町)

国内外の大学、研究機関、産業界等の人材が交流できるネットワークを形成しつつ、産学官による研究開発と人材育成を一体的に進める体制を構築して、原子力発電所の廃止措置を推進します。



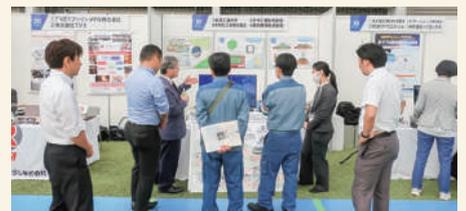
| 取組事例紹介 |

廃炉関連産業の育成・集積の実現に向けた総合展示会

福島廃炉産業ビジネス総合展

2023年10月19日(木)にナショナルトレーニングセンター「ヴィレッジ」にて「福島廃炉産業ビジネス総合展2023」が開催されました。

県内企業に廃炉関連産業のビジネスマッチング・PRの場を提供し、廃炉関連産業の育成と集積を図るため、廃炉をテーマとした国内唯一の総合展示会です。



| 取組事例紹介 |

福島県内企業の廃炉関連企業参入を支援

マッチングサポート事務局

東京電力福島第一原子力発電所における廃炉関連産業への参入を希望する県内企業と廃炉事業の元請企業を効果的につなぐため、(公財)福島イノベーション・コースト構想推進機構、(公社)福島相双復興推進機構、東京電力ホールディングス(株)が2020年7月に設置しました。現在190社を超える県内企業に登録いただき、935件の成約を支援しました。(2023年12月末時点)



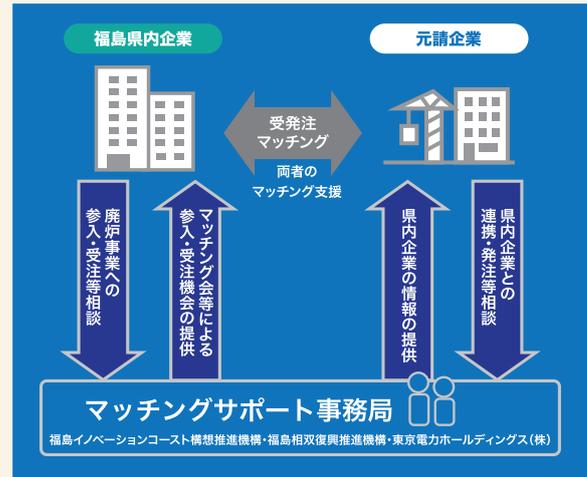
マッチング会



廃炉スタディツアー

<主な活動内容>

- ① 廃炉関連産業のマッチング機会提供
 - ・2023年12月6日(水)に大熊インキュベーションセンターにてマッチング会を開催し、5社が参加しました。
- ② 廃炉スタディツアーの開催
 - ・2023年7月20日(木)及び10月11日(水)に開催し、延べ20社20名が参加しました。福島第一原子力発電所の構内を視察し、実際に廃炉事業を行っている現場を見ていただきました。
- ③ 東京電力・元請企業と県内企業の交流会の開催
 - ・2023年8月2日(水)に浪江町地域スポーツセンターにて廃炉事業への参入・事業拡大を希望する県内企業と元請企業・東京電力との相互理解を促進することを目的に「第1回廃炉関連産業交流会」を開催しました。当日は、県内企業20社、製造業関連の元請企業7社・東京電力が参加しました。
- ④ 福島県内企業の技術力向上に向けた支援等
 - ・各企業を訪問し、コンサルティングを実施しています。



INTERVIEW インタビュー

マッハコーポレーション株式会社

宇宙開発で培った技術でクリアに撮影できる耐放射線カメラを開発



代表取締役社長
あかつか ごうぶん
赤塚 剛文 さん

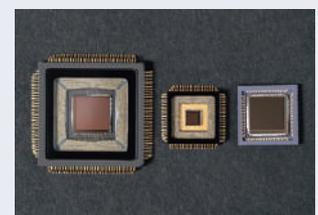
私たちは、神奈川県横浜市で人工衛星搭載用の機器を作っている技術者集団です。震災後、JAXA(宇宙航空研究開発機構)とカメラの心臓部であるCMOS撮像素子の開発をしていた際、放射線に強いカメラがないため福島第一原発の廃炉作業が困難だと報じるニュースを見ました。私たちは宇宙の過酷な環境下で稼働するカメラの技術を持っており、また、私が山形県出身で同じ東北の福島県のピンチをチャンスに変えたいという思いもあって廃炉分野への参入を決めました。

JAXAとともに手弁当で、2013年から耐放射線CMOS撮像素子の共同研究開発を開始。事故後の原子炉内の放射線量は宇宙空間より数倍高いため、当時世界一だった海外製カメラの倍の数値を目標に半導体から開発し、試行錯誤を重ねて2015年に完成しました。翌年から耐放射線カメラの開発を

始め、放射線照射試験で累積線量5Mgyと世界記録を数桁更新。従来のカメラの2倍以上の耐久性とクリアな画像での撮影を実現しました。2023年にモノクロカメラを廃炉メーカーに納入し、現在はカラーカメラの量産を準備中です。

私たちは100%福島県産のカメラを目指しており、2020年に震災前からお付き合いのある南相馬市の菊池製作所さんの中に事業所を開設。同社のほか、イノベ機構や県庁に紹介していただいた県内企業さんに部品の製造や組み立て、試験などを委託しています。

今後はこの耐放射線カメラで、原発の安全を守る国際的な仕組みづくりに貢献したいですね。また、私たちにしか作れない宇宙分野で活躍するオンリーワンのカメラを開発・製造し、“福島県から宇宙へ”を実現したいと考えています。





ROBOT / DRONE ロボット・ドローン

陸・海・空のフィールドロボットに対応する4つのエリアからなる世界に類を見ない開発実証拠点「福島ロボットテストフィールド」。この施設を中核として、浜通り地域等へのロボット産業の集積を図ります。



陸・海・空の使用環境を再現

福島ロボットテストフィールド

南相馬市復興工業団地内の東西約1,000m、南北約500mの敷地に「無人航空機エリア」、「インフラ点検・災害対応エリア」、「水中・水上ロボットエリア」、「開発基盤エリア」と、浪江町棚塩産業団地内に長距離飛行試験のための滑走路を設けています。

福島ロボット テストフィールド のデータ

開所 2018年7月20日～2023年12月31日(現在)

来訪者数：102,100人

浜通りロボット実証区域における実証件数：1,233件

※「浜通りロボット実証区域」とは物流、インフラ点検、災害対応などに活用するロボット・ドローンに関連した事業に取り組む企業、大学、研究機関などに向けて、福島県が仲介し、県内の橋梁、ダム、河川、山野などを実証試験や操縦訓練の場として提供している区域です。





**研究者の短期、長期の活動拠点を備える
開発基盤エリア**

福島ロボットテストフィールドの中核となる研究棟の「研究室」には、全国から17の大学や企業等が入居しています（2023年12月末現在）。また、研究棟内に併設する福島県ハイテクプラザ南相馬技術支援センターは、技術相談・設備使用（加工機器、分析機器等）・試験分析など、企業に寄り添った支援を行っています。



**あらゆる災害環境、老朽化を再現
インフラ点検・災害対応エリア**



**ダム、河川、水没市街地、港湾等を再現
水中・水上ロボットエリア**



**国内最大の飛行空域を備える
無人航空機エリア**





ROBOT / DRONE
ロボット・ドローン

福島ロボットテストフィールドを始め、「浜通りロボット実証区域」では、災害対応や物流・インフラ点検等の分野で活用が期待されるロボットやドローンの研究開発・実証試験を積極的に誘致しています。

震災以降
浜通り地域等へ
多数のロボット
事業者が集積

	新規進出 事業者数	新規参入の 地元企業者数	合計 事業者数		新規進出 事業者数	新規参入の 地元企業者数	合計 事業者数
ドローン	37	8	45	農業用ロボ	3	0	3
固定翼 無人航空機	3	0	3	産業・業務用ロボ	7	4	11
空飛ぶクルマ	2	0	2	介護・リハビリ・ コミュニケーション	8	0	8
自動走行	5	1	6	水中ロボ	1	0	1
災害対応・廃炉ロボ	8	1	9	宇宙分野	4	0	4

東日本大震災以前はなかったロボット事業者が、78事業者の新規進出、地元14事業者の新規参入により、浜通り地域等にロボット事業者の集積が着実に進んでいます(2023年12月末現在)。

海外メディアが水素ドローンを視察
【株ロボデックス】

海外メディアが視察に訪れ、長時間飛行を可能とする水素燃料電池を搭載したドローンの飛行実演を見学しました。(株)ロボデックス代表の貝應氏より機体説明を行い、参加者達は熱心に耳を傾けていました。



マルチコプター型ドローン長距離飛行実証
【株石川エナジーリサーチ】

(株)石川エナジーリサーチが、福島ロボットテストフィールドの浪江滑走路を利用し、マルチコプター型のドローンとしては日本最長レベルとなる50kmの飛行実証に成功しました。物流や測量、監視、林業、防災など様々な分野において、荷物を積載して長時間飛行できる高性能なドローンの開発が求められています。



最新のロボットやドローンが大集合！

「ロボテスフェスタ」開催

事業者や地元の方々を対象に、ロボットやドローンへの理解を深めていただく「ロボテスフェスタ」が福島ロボットテストフィールドで開催されました。ロボットやドローンの展示・体験コーナーが設けられ、実演バスツアーや講演会など、様々なイベントが行われました。当日は地元のエンターテインメントイベント「南相馬フェス」も併催され、多くの地域住民等が訪れ、福島ロボットテストフィールドへの親しみを深めました。



地元中学生が段ボールロボット製作

福島ロボットテストフィールドが立地している南相馬市の原町第二中学校の生徒4人が、(株)人機一体の協力を得て「零式人機 ver.2.0」の段ボールアートを製作しました。製作過程からモノづくりのプロセスをしっかりと踏んで、可動部まで精密に再現したもので、作品は福島ロボットテストフィールド研究棟内に展示されています。





福島イノベ構想から始まる 先端技術の実装と未来社会の創造

早稲田大学教育・総合科学学術院
教授

むら がい とも き

藁谷 友紀さん

株式会社リビングロボット
代表取締役社長

かわ うち やす ひろ

川内 康裕さん

<プロフィール>

専門は理論経済学、経営経済学。元早稲田実業学校校長。福島県いわき市出身。著作「スマート物流 物流サービスのスマート化が社会と経済を変える」

<プロフィール>

大手電機メーカーに入社後、通信関連の商品開発や各種新規商品の立ち上げを行い、世界初のスマホロボット「ロボホン」の開発に携わる。2018年に株式会社リビングロボットを立ち上げ、現在に至る。

ソサエティ5.0※の実現に向け、先端技術の社会実装やスマート社会の構築には何が必要か。そしてイノベ構想や企業の役割と可能性とは。物流のスマート化に取り組む早稲田大学の藁谷友紀教授と、教育用ロボットの社会実装を進める株式会社リビングロボット（本社：伊達市）の川内康裕社長にお話いただきました。

多様なロボットの実装で社会と生活の質を向上

川内 我々は“人に寄り添うロボット”を作る会社です。第一弾として教育用プログラミングロボット「あるくメカトロウィーゴ」（以下、ウィーゴ）を開発し、多くの教育現場で導入していただいています。現在は高齢者を見守るロボットの開発・実用化を進めているほか、2023年12月に「ライフスタイルウィズロボット研究会」を設立し、藁谷先生にご参加いただいています。

藁谷 私の専門は経済学と経営学で、ロボットを活用して非定型の荷物のデータを自動収集するスマート物流サービスの社会実装に取り組んでいます。

スマート社会の構築で重要なのは社会の質、生活の質を上げることです。リビングロボットさんの魅力は、ウィーゴがすでに教育現場で使われていること。それを拡張して高齢者の見守りなど社会の要請に応えるロボットの実装につなげ、生活の質を上げる。つまり、ソサエティ5.0の目指すところと非常に合っているのです。

川内 まさにそれが本質です。我々のキーコンセプトは“人と共に成長するロボット”。すでに完成したハードウェアがあり、かつクラウドでつながっているため、高齢者の見守りにまた一から作らなくてもクラウドを含めたシステムを追加すればどんどん進化します。我々はこれをプラットフォーム化し、生成AIなど他の機能を加えて成長させ、新たな役目を持たせたいと考えています。

藁谷 初等・中等教育でのプログラミング教育の目的は、アルゴリズム、論理の展開を学ばせることです。ウィーゴを使う

と自分が手がけたプログラミングと実際の動き＝現実が結びつく実感が得られ、子どもたちの関心が広がります。私はここがもう一つ、プログラミング教育の重要な点だと考えています。

川内 先生のおっしゃるとおりで、パソコンでのプログラミングはすべて動きが同じです。でもウィーゴは

組み付けなどで個体差があり、同じプログラミングをしても動きが微妙に違うので、実際の動きを見て調整する必要があります。それをリアルに感じることで、論理的思考や自由な発想が身に付くと思っています。



イノベ構想にはコーディネート役が不可欠

藁谷 イノベ地域では産業集積（クラスター）を進めていますが、クラスターには企業同士を結びつけるなど全体を見てコーディネートする存在が不可欠です。その役割を果たすのがイノベ機構です。

重要なのは技術の社会実装であり、そのためには供給サイドの議論だけでなく、需要サイドとどう結びつけるかを考える必要があります。また、新しい技術には初めから収益性が備わっているわけではありません。ただスマート社会の構築には必要な一歩なので、イノベ機構が支援し、まず社会の中で使ってみる。現場で鍛えられてこそ、収益性が生まれるのです。これが需要サイドと結びつけることの一つです。

川内 ウィーゴはイノベ機構の支援があって社会実装できました。教育だけではなく、高齢化や人口減少などイノベ地域には多くの課題があります。その解決のために我々は自動草刈機を開発する予定ですし、コンパクトなスマート農場をつくるのもおもしろいと思います。

こうした課題は全国にあるので、ここで課題を一つひとつクリアして実績を作れば日本中、さらに世界中に広がります。スモールスタートするには、大都市よりイノベ地域がぴったりです。我々は、今後もさまざまな面で人生100年時代を支えたいと考えています。

藁谷 イノベーションとは創造的破壊、つまり従来のルーティンや尺度を一度壊して新しいものを作ることです。イノベ地域には新しいものを作り出す土壌や空間があり、復興、成長、発展、そして新しい社会の構築という時間軸もあります。その時間軸と向き合い、みんなで将来像を考えて作り上げていけることがイノベ構想の強みです。クラスターをコーディネートするイノベ機構を含め、今後の展開に期待したいですね。

※ソサエティ5.0とは

日本が目指すべき未来社会の姿として提唱され、「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会」と定義される。





エネルギー・環境・リサイクル

ENERGY/ENVIRONMENT/RECYCLING

再生可能エネルギーを核とした産業の育成・集積を図り、地域経済の復興・再生に取り組んでいます。水素エネルギーの活用や太陽光パネル、石炭灰等の先進的なリサイクル技術開発の取組等を推進しています。

世界有数の再エネ由来水素製造拠点

福島水素エネルギー研究フィールド (FH2R)

福島県浪江町に立地するFH2Rでは、生み出された水素が、東京オリンピック・パラリンピック大会において、聖火台や聖火リレートーチ等の燃料として利用されたほか、県有施設等に設置された燃料電池や水素ステーション等でも活用されています。また、FH2Rを活用し、高効率で低コスト、かつ再エネの最大限の導入にも資する水素製造システムの開発をはじめ、水電解装置の更なる大型化や燃料電池トラック等に対応する大型水素ステーションに関する技術開発が進められるなど、FH2Rを核に福島県の水素社会実現に向けて更なる展開が期待されます。



水素充填研究設備

福島水素充填技術研究センター

新エネルギー・産業技術総合開発機構が「超高压水素インフラ本格普及技術研究開発事業」において福島県浪江町に整備していた「福島水素充填技術研究センター」が2023年12月から本格的に運用を開始しました。

本センターは隣接する水素製造施設「福島水素エネルギー研究フィールド」で製造した水素を主に利用し、燃料電池を搭載した大型・商業モビリティへの大流量水素充填技術や大流量水素計量技術に関する技術開発・検証が実施可能な研究施設です。

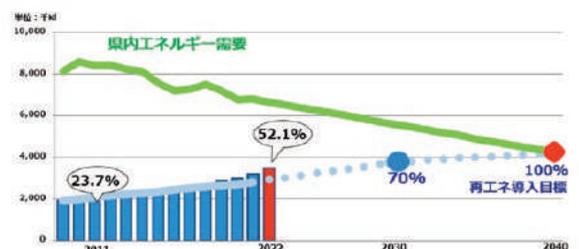


出典：新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）

2022年度再生可能エネルギー導入実績

福島県は、復興に向けた主要施策の一つに再生可能エネルギーの飛躍的推進を位置づけ、2012年3月に「2040年頃を目途に県内エネルギー需要の100%以上に相当するエネルギーを再生可能エネルギーから生み出す」という意欲的な目標を掲げました。この再エネ導入量は2022年度末で52.1%となり、初めて50%を超えました。導入目標の達成に向けて、引続き、再エネの導入拡大に取り組んでいきます。

再生可能エネルギーの導入実績（原油換算）



| 取組事例紹介 |

水素を活用した新たな未来のまちづくり

福島県では2021年6月に、トヨタ自動車株式会社などと水素を活用した新たな未来のまちづくりに向けた検討を開始しました。様々な燃料電池自動車の運用などを通して、世界に先駆けた水素社会の実現に向けたチャレンジを進めています。

燃料電池小型トラック



出典：根本通商(株)

燃料電池移動販売車



出典：イオン東北(株)

燃料電池スクールバス



出典：浪江町

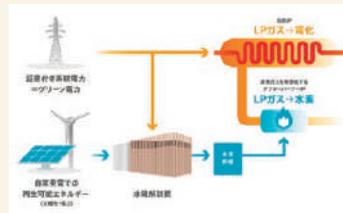
燃料電池営業バン



出典：(株)エナジア

株式会社デンソー福島

株式会社デンソー福島（本社：福島県田村市）と株式会社デンソー（本社：愛知県刈谷市）はカーボンニュートラルなモノづくりの実現に向けた取組の一環として、2023年3月より、デンソー福島にて、トヨタ自動車株式会社（本社：愛知県豊田市）と共同で、工場内でのグリーン水素の製造、および製造した水素の工場での活用の実証を開始しました。実証を通じて、「水素地産地消」モデルの構築や、カーボンニュートラル工場の実現を目指しています。



デンソー福島内の水素エネルギー実証実験システム

ふくしま再生可能エネルギー産業フェア（REIFふくしま）

再生可能エネルギー・水素・省エネ等関連産業の育成・集積に向けて、技術・情報の発信と商談・交流の場を提供することを目的に毎年開催しているふくしま再生可能エネルギー産業フェアは、東北地方最大級の再エネの展示会として、著名な講師などによるセミナーを始め、発注企業とのマッチングイベント等多彩な催しを実施しています。



知事による再生可能エネルギー福島への紹介

ドイツ（ノルトライン＝ヴェストファーレン州）、スペイン（バスク州）で福島県知事による再生可能エネルギー福島への紹介をしました。また、多くの海外企業団が来県され、福島県内の再エネ企業などの視察もしています。





農林水産業

AGRICULTURE, FORESTRY AND FISHERIES

農業をイノベ地域における成長産業と位置付け、スマート農業などを活用した新たな農業の展開、新たな雇用創出や他地域からの農業参入をサポートしています。



植物ワクチンの培養



植物ワクチンの接種試験

最先端の植物ワクチン技術を世界へ発信

ベルグ福島株式会社 (川俣町)

ベルグ福島株式会社は、人工光を利用した完全閉鎖型育苗施設、植物ワクチン苗量産技術、接木苗量産技術を用いて、良質で付加価値の高い果菜類苗を生産しています。完全閉鎖型育苗施設は果菜類苗を生産している植物工場としては東日本最大規模です。世界で初めて実用化した2種類の植物ワクチンを混合接種する苗の生産も他に無い特徴となっています。

株式会社福島しろはとファーム (檜葉町)

檜葉町でサツマイモの試験栽培を2017年より開始し、現在約50ha規模の作付けをしています。世界最先端のサツマイモ専用貯蔵庫や苗供給能力年間400万本規模の育苗施設も完成し、「サツマイモの一大産地化」を目指しています。



農地所有適格法人ちーの (浪江町・飯舘村)

休耕田・耕作放棄地等を活用して米を生産し、米からバイオマスプラスチック(ライスレジン)の製造を行っている関連会社株式会社バイオマスレジン福島に供給しています。2021年より浪江町で生産を開始し、2022年からは飯舘村でも資源米を生産しており、生産性、効率性を重視し再生二期作、ドローン直播栽培等を導入しています。



フラワーファームなみえ (浪江町)

双葉郡浪江町にて、恒栄電設株式会社が新規事業として農業を2021年2月より開始しました。遊休農地を有効活用し、エネルギーの地産地活事業の新しい価値創造を目指しています。また電気会社の強みをいかして、スマート農業を推進するため、自社開発の「SERRES(セレス)」を用いてハウスの環境制御を行い、サブスク・EC向けのトルコギキョウを生産出荷しています。



株式会社なかた農園 (浪江町)

郡山市で水稻、長ネギを生産する農業法人で、2022年より浪江町の遊休農地3.5haを活用し長ネギの栽培を開始しました。冬でも比較的温暖な気象要件を活かして生産しています。今後は、耕作地を浪江町に加え富岡町へも拡大し約18ha、生産量を480tに拡大する計画になっています。



| 取組事例紹介 |

農林水産業の先端技術の展開



ドローンによる森林資源情報等の調査

広大な森林を人力で調査するには限界があり、空間線量率が高い区域も存在することから、ドローンやAIを活用して空間線量率や地形、1本1本の樹種・樹高・直径・位置・材積等を効果的に把握するシステムを開発しています。



漁業資源量把握の調査

操業コストの軽減と資源や市況に応じた計画的漁獲を実現するため、海面、内水面における漁場環境、操業、漁業資源、水揚げした魚介類の品質に関する情報を網羅した操業支援システムの開発に取り組んでいます。

農業参入を円滑に推進する活動

企業等の農業参入を円滑に推進するため、参入を検討している企業と受け入れる市町村等向けのセミナーの開催、現地見学ツアー、企業の参入に関する相談対応、企業の個別現地案内、参入を見込む企業への試験ほ場設置の支援、企業と参入を見込む市町村や地域との調整、企業の農業参入に係る情報収集及び情報発信などを実施しています。



企業等農業参入セミナー



現地見学ツアー



農業参入相談会



個別現地案内



医療関連

MEDICAL RELATED

高齢化や医療・介護人材の不足が進む浜通り地域等において、医療関連産業の集積を図るとともに、企業等の新規参入を促進しています。

企業への就職や定着を図る

医療関連産業を担う人材育成

福島県内若手技術者のスキルアップや、大学生・高校生に医療機器への関心を高めることで、県内医療関連企業への就職や定着を図っています。



ふくしま医療機器開発支援センターにおいて、高校生等へ医療機器開発の魅力を伝える体験イベントを実施しています。(写真は電波暗室での試験を見学している様子)



医療機器の開発から事業化までを一体的に支援する国内初の施設

ふくしま医療機器 開発支援センター（郡山市）

医療機器に関する安全性評価や事業化支援、医療従事者へのトレーニングを通じて、福島県の強みである医療関連産業の伸展と、我が国の医療機器関連産業の振興に貢献しています。安全性評価では、電磁波に関する影響を調査するEMC試験や大型動物（実験用ブタ）を用いた生物試験などを実施しています。また、新規参入や開発過程における課題について、法規制のコンサルティングや連携する企業のマッチング、医療現場へのヒアリングなど、様々なサポートを行っています。

｜ 取組事例紹介 ｜

福島県医療福祉機器産業協議会

福島県医療福祉機器産業協議会は、医療福祉機器分野において、関連企業、団体及び会員相互交流の活性化並びに企業人材の育成機会を提供することで、会員の取引拡大と技術基盤の強化を図り、当該分野への会員の進出を促進するための各種支援を行っています。



2023年度福島県医療福祉機器産業協議会社長塾
(会員企業等による医療現場の視察)

メディカルクリエイションふくしま

医療機器関連メーカーと地域・大学との技術交流の場として、地域製造業が得意とする製造技術の展示と医療機器関連メーカーによる最新医療機器の展示を同時に行い、研究開発担当者・エンジニア間の活発な技術交流によって、新技術開発、新商品の創出を促進していきます。



メディカルクリエイションふくしま2023

医療-産業トランスレーショナルリサーチ (TR) センター (浜通りサテライト)

南相馬市に浜通りサテライト開所

～浜通り地域等への進出企業との共同研究、技術移転等を推進～

医療-産業トランスレーショナルリサーチセンター (TRセンター) は、「福島医薬品関連産業支援拠点化事業 (福島事業)」を推進するための組織として2012年11月に設立され、2021年11月には、TRセンターの研究成果を活用し浜通り企業等への支援を通じて医薬品関連産業の集積等に貢献するため、浜通りサテライトを開所しました。

浜通りサテライトでは、抗体作製関連の最先端の研究チームが世界レベルの研究を行うとともに浜通り地域等への進出企業との共同研究、技術移転等を推進しています。



第3回浜通りバイオ産業推進フォーラム

(2023年12月14日：南相馬市)

～医薬品関連産業集積の取組を検討するため「定期的な意見交換の場」として開催～



ゲノム解析室
2023年6月
財団法人入居

共同研究実験室1
2023年1月
ベンチャー企業入居

新型コロナウイルスに対するIgA抗体の実用化

株式会社ゼファー
(福島県須賀川市)



IgA抗体マスク
TRセンターが取得した「新型コロナウイルスに対するIgA抗体」を用いてフィルターを開発しマスクに活用

※ふくしま医療機器開発支援センターのマッチング支援による事業化

株式会社いちい
(福島県福島市)



IgA抗体スプレー
「新型コロナウイルスに対するIgA抗体」を布マスク等に噴霧して、ウイルスの体内への侵入を防ぐ

| 取組事例紹介 |

株式会社ARCALIS (アルカリス)

2023年7月、福島県南相馬市下太田工業団地内に日本初のmRNA医薬品製造工場が誕生しました。mRNA医薬品・ワクチン原薬及び製剤の一貫した製造体制構築に向けて取り組んでいます。



株式会社ARCALIS mRNA医薬品・ワクチン製造工場

ミツフジ株式会社 福島工場

伊達郡川俣町の西部工業団地内に進出し、着るだけで高精度の生体情報を取得できるウェアラブル端末をはじめ、様々な服飾雑貨の製造、そしてオンライン診療システムによる健康モニタリングサービス等の開発研究拠点として活動しています。



工場棟と研究開発棟を備えた福島工場では、最先端のスマートウェアを生産



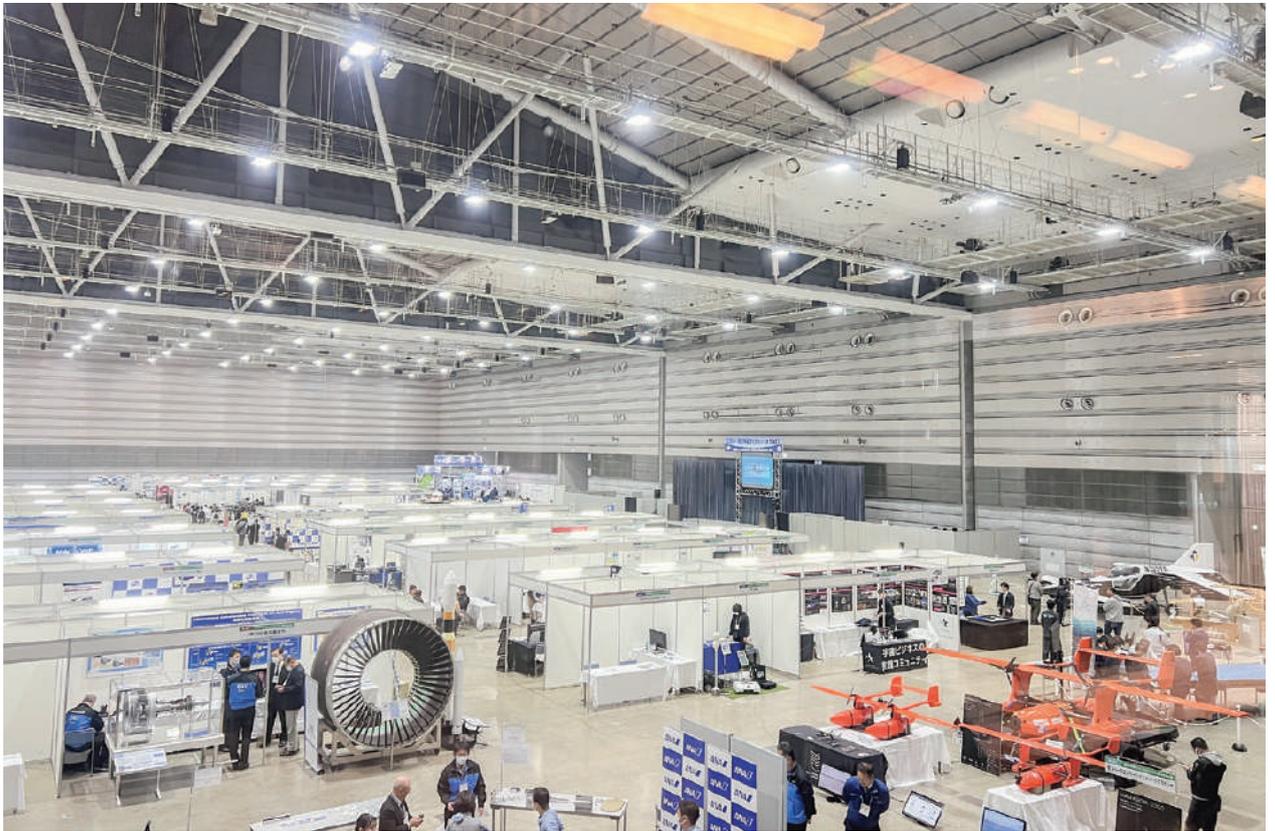
航空宇宙

AEROSPACE

航空宇宙産業の育成・集積に向けて、
参入する企業の支援や産業を担う人材育成に取り組んでいます。

ロボット・航空宇宙フェスタふくしま2023

2023年11月に、ビッグパレットふくしまで2日間開催。1日目はビジネス向け展示会・商談会、2日目は一般向け展示会、両日合わせて計5,500名の来場者で賑わいました。特に2日目は、次世代を担う若い世代が、ロボットや航空・宇宙関連の展示や体験イベントで楽しむ様子が見られました。



| 取組事例紹介 |

パリ・エアショー2023

パリ・エアショーは2年に1度パリで開催される航空宇宙業界世界最大規模を誇る見本市です。最新技術を駆使した製品が一堂に会し、バイヤーと出展社の出会いの場でもあります。2023年度展では「空飛ぶクルマとも称される電動垂直離着陸機（eVTOL）の展示コーナーが初めて設けられました。今回日本からの出展は27社、一般社団法人日本航空宇宙工業会（SJAC）ブース出展は17社になり、福島県の支援のもと、南相馬市の株式会社スペースエンターテインメントラボラトリーも出展しました。



エアロマート名古屋2023

エアロマートはフランスやカナダなど世界の航空宇宙産業集積都市で開催されている航空分野の世界的なBtoBイベントです。国内外の企業間におけるマッチングと展示会を融合した展示商談会になり、海外販路開拓や新規取引先開拓、新たなパートナー企業との出会いを提供します。2023年参加企業数は国内373社、海外53社、福島県エリアとして福島県、福島ロボットテストフィールド、その他5社が出展しPRを行いました。



航空宇宙関連製品を開発中の企業

テトラ・アビエーション株式会社



テトラ・アビエーション株式会社は、「移動」をより便利で快適にするための、eVTOLを開発しています。eVTOLとは、ヘリコプターやドローンのように、好きな場所で垂直に離着陸できる、電動の航空機で、今まさに誕生しようとしている新しい乗り物です。福島ロボットテストフィールドを重点的に活用し個人用空飛ぶクルマとしてその技術開発を進めています。

インターステラテクノロジズ株式会社



インターステラテクノロジズ株式会社では民間企業による低コストな小型人工衛星打上げロケットを開発中です。2022年には南相馬市と連携協定を結び、同市を中心とした浜通り地域にロケット部品サプライチェーンを構築しつつ、ロケット「ZERO」の初号機打上げに向けて開発を進めています。

AstroX株式会社



AstroX株式会社は空中発射方式による衛星軌道投入ロケットを開発する民間宇宙スタートアップ企業です。2022年12月に世界初の方位角制御を行い気球からのモデルロケット空中発射に成功しました。2023年には南相馬市と衛星打上げロケット開発の促進に向け連携協定を締結し、実証場所の確保や市内事業者との連携を行うことで研究開発を加速させています。



INTERVIEW インタビュー

インターステラテクノロジズ株式会社

宇宙への個別配送サービスを目指し
南相馬市にロケットの量産拠点を

代表取締役
いながわ たかひろ
稲川 貴大 さん

我々は「開かれた宇宙開発」をコンセプトにロケットの開発・製造を行う会社です。2013年に北海道大樹町で事業を開始し、2019年に日本で初めて民間企業が単独で開発したロケットで宇宙空間に到達しました。現在は、ニーズが急増している小型人工衛星を宇宙に運ぶロケット「ZERO」の開発・量産に取り組んでいます。

開発から徐々に製造にシフトしていく中でのものづくりの基盤となる場所が必要になり、2021年に南相馬市に福島支社を設立しました。決め手となったのは浜通り地区にしっかりとした産業基盤があり、ものづくりのサプライチェーンや地元のご理解があったことです。また、ロケット開発では試験が非常に重要なのですが、南相馬市には福島ロボットテストフィールドがあることも大きかったですね。

現在は地元の企業十数社に部品の加工などをお願いして、ロケットの頭脳に相当する電子基板系や車のハンドルにあたるジンバル機構、ロケットの先端部のフェアリングの開発などをここでを行っています。補助金はもちろん、福島県やイノベ機構が地元企業とつないでくださったことがありがたかったですね。

今後は2024年度以降にZEROの打ち上げを行い、5年以

内に量産まで持っていきたいと考えています。我々が目指しているのは、宇宙へ個別配送ができる輸送サービスです。そのためには低コストで高頻度に行きたい場所に行けるロケットを量産する必要があり、自社で新しい技術を開発するとともに、製造拠点の一つとして南相馬市に新工場をつくるなど量産体制を整えていく予定です。毎週のようにロケットが打ち上がる時代を目指してがんばっていききたいと思います。



福島ロボットテストフィールドで行われたフェアリングの分離試験

廃炉

ロボット・ドローン

エネルギー・環境・リサイクル

農林水産業

医療関連

航空宇宙

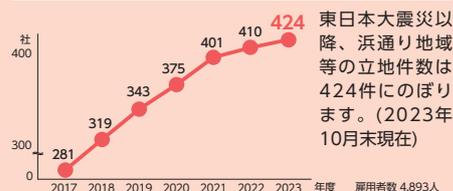


INDUSTRIAL AGGLOMERATION

産業集積

浜通り地域等における新たな産業集積の実現と既存産業の復興再生に向けて、産業団地の整備や企業立地の促進を図るとともに、進出企業等と地元企業の交流、ビジネスマッチングを促進しています。

多くの企業が浜通り地域等に進出



双葉町：中野地区復興産業拠点



浅野燃糸(株) (本社：岐阜県)

中野地区復興産業拠点(双葉町)にて主力商品のタオル「エアークアール」や町の復興を願い商品化したタオルマフラー「ダキシメテフタバ」などの材料となる燃糸(ねんし)の製造を行っています。工場に併設したカフェ・ショップもオープン(2023年4月操業開始)。

南相馬市：下太田工業団地



(株)ARCALIS (本社：福島県) ※千葉県から移転

下太田工業団地(南相馬市)にて新型コロナウイルスで注目される先端技術である、mRNAワクチン・治療薬の原薬・製剤の製造を行っています(2023年8月操業開始)。

浪江町：浪江町南産業団地



会澤高圧コンクリート(株) (本社：北海道)

浪江町南産業団地にて自己治癒コンクリート材料他、設計から施工まで一貫したデジタル管理等の実用化・開発・生産の3機能を兼ね備えた次世代研究開発型生産拠点了(2023年6月操業開始)。

双葉町：中野地区復興産業拠点



大和ライフネクスト(株) (本社：東京都)

中野地区復興産業拠点(双葉町)にてホテル「FUTATABI」を建設予定。観光客の受け入れから、各種団体の研修旅行、さらには国際会議の誘致までを可能とする新たなカンファレンスホテルです(2025年度開業予定)。

浪江町：浪江町北産業団地



(株)バイオマスレジン福島 (本社：福島県)

浪江町北産業団地(浪江町)にてお米(非食用米)から作るバイオマスプラスチック「ライスレジン」の生産を行っています(2022年11月操業開始)。

富岡町：富岡産業団地



(株)木村管工 (本社：福島県)

富岡産業団地(富岡町)にて福島復興事業製品の製造・金属加工を行っています(2023年5月操業開始)。

| 取組事例紹介 |

企業誘致に向けた取組

浜通り地域等の優れた立地環境をPRする企業立地セミナーなどを開催しています。また、進出検討企業を対象とした産業団地、商業施設等を視察するツアーも実施しています。



企業立地セミナー（東京：大手町）

福島イノベ企業合同プレス発表会の開催

新たに浜通り地域等に進出した企業や、浜通り地域等で新しい挑戦に取り組む地元企業の活動を後押しするため、その取組内容や事業成果などを広く発信する「福島イノベ企業合同プレス発表会」を開催しています。

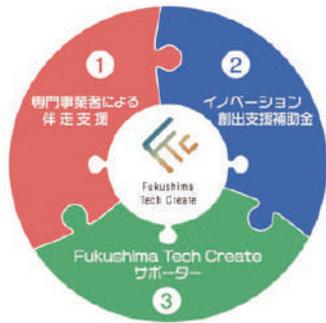


福島イノベ企業合同プレス発表会

Fukushima Tech Create

浜通り地域等で起業・操業を目指す企業等に対し、専門家を活用した伴走支援によるアイデアの具現化、市場調査や試作品開発などの補助金、サポーターによる実証場所の提供等により、浜通り地域等に新たなビジネスを創出します。

イノベ地域での起業・創業を支援する「3つのエンジン」



地域復興実用化開発等促進事業

イノベ構想の重点分野（廃炉、ロボット・ドローン、エネルギー・環境・リサイクル、農林水産業、医療関連、航空宇宙）について、地元企業等と連携して行う実用化開発等を支援しています。



研究開発を進める個人用空飛ぶクルマ

福島イノベ倶楽部

イノベ構想に賛同する企業・団体が、業種や地域の枠を越えてシームレスな交流を図り、地元企業と進出企業との連携による新事業の創出や取引の拡大を目指す「福島イノベ倶楽部」（令和5年7月時点会員数：160企業・団体）。視察会や交流会を通して会員間の交流を促進することで、ビジネスチャンスの創出につなげます。



事業化を目指す事業者への伴走支援

「地域復興実用化開発等促進事業」の採択企業（191社・団体、212テーマ）等を対象に、ビジネスモデルや販売戦略の策定支援、想定顧客リストの作成、各種マッチング、資金確保、特許出願をはじめとした戦略的な知的財産保護等、各企業の課題解決に向けた支援を実施しています。



調達先の確保に関する支援

ビジネスコンテスト「イノベのたまご」2023

浜通り地域等15市町村（イノベ地域）における様々な挑戦をサポートするため、イノベ地域を舞台に今後活躍が期待される若者や女性を対象とする、全国の有望なシーズをイノベ地域に呼び込むためのビジネスアイデアコンテストを開催しています。





INDUSTRIAL AGGLOMERATION

産業集積

浜通り地域等15市町村における新たな産業集積の実現に向けて、産業団地の整備や企業立地の促進を図っています。



産業団地情報の詳細はこちらから

浜通り地域等の産業団地

いわき市 144件

1 いわき四倉中核工業団地第1期区域 33.6ha

- ◆根本興産(株) (いわき市/セメント・同製品製造業)
- ◆株式会社成栄 (いわき市/建設用・建築用金属製品製造業)
- ◆株式会社金子製作所 (埼玉県/医療用機械器具製造業)
- ◆南小野川製作所 (いわき市/電子部品・デバイス・電子回路製造業)
- ◆メルテックいわき(株) (いわき市/窯業・土石製品製造業)
- ◆会川鉄工(株) (いわき市/金属製品製造業)



会川鉄工(株)

2 いわき四倉中核工業団地第2期区域 17.0ha

- ◆東新工業(株) (横浜市/めっき加工業)
- ◆株式会社ニッチュー (東京都/金属加工機械製造業)

田村市 26件

6 田村市産業団地 13.0ha

- ◆株式会社トプコンオプトネクス (田村市/光学機械器具・レンズ製造業)
- ◆株式会社田村バイオマスエナジー (田村市/発電業)
- ◆株式会社藤倉航装 (東京都/航空機装備品製造業)
- ◆オールナビクオーツ(株) (郡山市/ガラス製品製造業)



㈱デンソー福島

7 田村西部工業団地 64.1ha

- ◆株式会社デンソー福島 (田村市/輸送用機械器具製造業)
- ◆株式会社トッキュウ (北海道/道路貨物運送業)

8 田村市東部産業団地 26ha

川内村 7件

25 田ノ入工業団地 7.0ha

- ◆大橋機産(株) (埼玉県/建設機械・鉱山機械製造業)

その他のエリア

- ◆株式会社菊池製作所 (東京都/金属製品製造業)
- ◆株式会社コドモエナジー (大阪府/窯業・土石製品製造業)
- ◆株式会社ケミカル川内 (川内村/窯業・土石製品製造業)



大橋機産(株)

川俣町 8件

13 川俣西部工業団地 7.7ha

- ◆株式会社ミツフジ (京都府/繊維工業)
- ◆南カミノ製作所 (川俣町/輸送機械器具製造業)
- ◆ベルグ福島(株) (川俣町/耕種農業)



ミツフジ(株)

14 羽田産業団地 1.9ha

- ◆ベルグ福島(株) (川俣町/耕種農業)

15 中山工業団地 3.5ha

- ◆アサヒ通信(株) (福島市/電気機械器具製造業)
- ◆株式会社小林 (川俣町/燃料卸売業)

その他のエリア

- ◆川俣精機(株) (川俣町/電気機械器具製造業)
- ◆株式会社日ビス福島製造所 (川俣町/輸送機械器具製造業)
- ◆NOKメタル(株) (宮城県/輸送機械器具製造業)



新地町

7件

35 新地南工業団地 8.0ha

- ◆株式会社 (山形県/非鉄金属鑄物製造業)
- ◆株式会社 (神奈川県/生産用機械器具製造業)

36 駒ヶ嶺工業用地 2.0ha

- その他のエリア
- ◆石油資源開発株式会社 (東京都/ガス業)



株式会社

相馬市

37件

3 相馬中核工業団地西地区 68.5ha

- ◆株式会社 (東京都/輸送用機械器具製造業)
- ◆オリエンタルモーター株式会社 (東京都/電気機械器具製造業)

4 相馬中核工業団地東地区 284.7ha

- ◆相馬エネルギーサポート株式会社 (東京都/倉庫業)
- ◆株式会社 (東京都/化学工業製品製造業)
- ◆ユニマテック株式会社 (東京都/化学合成品製造業)

5 相馬南第二工業団地 5.5ha

- その他のエリア
- ◆株式会社 (静岡県/建築材料、鋳物・金属材料等卸売業)



株式会社

葛尾村

4件

33 葛尾村産業団地 2.9ha

- ◆株式会社 (葛尾村/バナメイエビ生産販売)

34 葛尾村東部産業団地 2.4ha

- ◆福島パルムシー株式会社 (葛尾村/木材・木製品製造業)



株式会社

南相馬市

74件

9 信田沢工業団地 4.6ha

- ◆明治商工株式会社 ◆株式会社・イー・ティー

10 復興工業団地 12.4ha

- ◆ミズホ金属株式会社 (東京都/ゴム製品製造業)
- ◆テトラ・アビエーション株式会社 (東京都/輸送用機械器具製造業)
- ◆株式会社 (宮城県/プラスチック製品製造業)
- ◆株式会社 (愛知県/情報サービス業)

11 下太田工業団地 13.3ha

- ◆株式会社 (東京都/金属素形材製品製造業)
- ◆株式会社 ◆株式会社
- ◆南相馬復興アグリ株式会社 ◆株式会社 ◆富士基礎機械株式会社

12 飯崎産業団地 3.3ha

- その他のエリア
- ◆三和化学工業株式会社 (東京都/無機化学工業製品製造業)
 - ◆東北アクセス株式会社 (南相馬市/道路旅客運送業)
 - ◆株式会社 ◆株式会社 ◆株式会社 ◆株式会社 ◆株式会社



復興工業団地

浪江町

25件

29 浪江町北産業団地 3.7ha

- ◆株式会社 (浪江町/プラスチック製品製造業)
- ◆かもめミライ水産株式会社 (浪江町/陸上養殖業)

30 浪江町南産業団地 18.5ha

- ◆株式会社 (北海道/窯業・土石製造業)
- ◆株式会社 (北海道/運輸倉庫業)
- ◆株式会社 (福島県/運輸倉庫業)

31 浪江町棚塩産業団地 38.1ha

32 浪江町藤橋産業団地 6.7ha

- ◆株式会社 (神奈川県/電気機械器具製造業)
- ◆株式会社 (兵庫県/情報サービス業)

- その他のエリア
- ◆株式会社 (福岡県/電気機械器具製造業)



フォーアールエナジー株式会社

大熊町

7件

26 大熊西工業団地 9.2ha

- ◆次世代グリーンCO₂燃料技術研究組合 (大熊町/有機化学工業製品製造業)

27 大熊中央産業拠点 9.1ha

- ◆株式会社 (東京都/耕種農業)
- ◆株式会社 (大熊町/情報処理・提供サービス業)



大熊中央産業拠点

富岡町

22件

22 富岡産業団地 22.2ha

- ◆株式会社 (大阪府/運輸業)
- ◆株式会社 (岐阜県/製造業)
- ◆株式会社 ◆株式会社 ◆株式会社
- ◆株式会社 ◆株式会社 ◆株式会社 ◆株式会社 ◆株式会社

23 富岡工業団地 24.1ha

- ◆株式会社 (東京都/倉庫業) ◆株式会社 (同)
- ◆株式会社 (同)

24 富岡第二工業団地 6.1ha

- ◆株式会社 ◆株式会社

- その他のエリア
- ◆株式会社 (いわき市/宿泊業)



株式会社

榎葉町

22件

19 竜田駅東側開発エリア 6.2ha

20 榎葉北産業団地 15.8ha

- ◆株式会社 (東京都/ガラス・同製品製造業)

21 榎葉南工業団地 33.4ha

- ◆株式会社 (榎葉町/無機化学工業製品製造業)
- ◆株式会社 (東京都/無機化学工業製品製造業)



株式会社

広野町

23件

16 広野工業団地 45.2ha

- ◆株式会社 (神奈川県/医薬品製造業)
- ◆株式会社 (東京都/化学工業)

17 広野駅東側産業団地 5.0ha

- ◆株式会社 (広野町/情報サービス業)
- ◆株式会社 (東京都/宿泊業)

18 東町産業団地 5.0ha

- ◆株式会社 (福島県/運輸倉庫業)



株式会社

飯舘村

9件

37 飯舘村事業用地 1.87ha

38 飯舘村整備予定地 (深谷地区) 11.1ha

- その他のエリア
- ◆株式会社 (東京都/金属製品製造業)
 - ◆株式会社 (飯舘村/生産用機械器具製造業)
 - ◆株式会社 (飯舘村/金属製品製造業)



株式会社

双葉町

9件

28 中野地区復興産業拠点 34.3ha

- ◆株式会社 (企業共同体) (双葉町/舗装材料製造業)
- ◆株式会社 (東京都/炭素・黒鉛製品製造業)
- ◆株式会社 (岐阜県/ねん糸製造業)
- ◆株式会社 (北海道/宿泊業)
- ◆株式会社 (東京都/宿泊業)
- ◆株式会社 ◆株式会社



株式会社

※市町村名の隣の件数は、企業立地補助金の採択件数(2023年10月末現在)
※立地企業は主要な事例を記載



EDUCATION / HUMAN RESOURCE DEVELOPMENT

教育・人材育成

大学等による教育研究活動の活性化に向けた取組を進めるとともに、小中学校、高等学校における企業や高等教育機関等と連携したキャリア教育を実施し、浜通り地域等の復興の核となる高い志を持った若い力を育成していきます。

『イノベ教育』とは

成長段階（小学校、中学校、高等学校及び大学等）に応じた地域、福島県内外の企業や研究機関等と連携した「出前授業」、「視察研修」等の実学を通じて『イノベ構想』、『地域』を牽引する人材を育む教育。さらには、探究活動（学習）を通じて、地域、年代等の垣根を越え、多様な考えを受け入れることで個々の強みを活かすことができる『福島県“発”イノベーションを創出する人材』を輩出することを目的とする教育。

イノベ人材の裾野の拡大

・地域への「思いをはぐくむ教育」への支援
・福島イノベ構想、復興への志を高める



福島のポテンシャルの高さを知る

・イノベーションを企てる人材の育成
・専門人材の育成への支援



福島の復興に資する「知」の習得

・専門知識を有し、
福島の復興に資する人材育成



・『イノベ構想』、『地域』を牽引する人材
・『福島県“発”イノベーション』を創出する人材

小中学校への支援（イノベ人材の裾野の拡大）

構想に関わる職業観や産業への興味・関心を醸成するとともに、将来に対する夢や希望を膨らませることにより、未来の福島を担う人材の育成に向けて裾野を広げています。

小中学校、義務教育学校での魅力ある教育の推進

避難地域12市町村の小・中学校において、優れたカリキュラムを編成、実証するとともに、魅力ある学校づくりに必要な教職員研修等を行うために、2017年度より文部科学省の調査研究事業としてスタート。ふるさとに根差した教育活動、児童・生徒たち、保護者とともに「通いたい」、「通わせたい」と思えるような魅力的な学校づくりのための取組を実施しています。（避難地域12市町村における小中学校教育等推進事業）

地域の未来を牽引する起業家の育成



【田村市】
地域と連携した体験的なキャリア学習

学校を核にしたコミュニティの再構築



【大熊町】
創造的演劇・本の町からオリジナルの演劇をつくらう

グローバル社会を生き抜く人材の育成



【富岡町】
国際理解教育「わくわく英語DAY」

人口減少社会を見据えた少人数教育



少人数教育に対応した教授法に関する教員研修会

双葉郡8町村『ふるさと』への“思いを育む”教育プログラム

双葉郡8町村では、震災後の子どもたちの学びを守り、未来を生きる強さを持った人材に育てることを目指して策定された『福島県双葉郡教育復興ビジョン』（2013年7月31日策定）を踏まえ、ふるさとの復興や持続可能な地域づくりに貢献でき、その取組を世界へ発信していく能力をもつ人材の育成、地域と連携した実践的な学びを通じた教育と地域復興の相乗効果の創出、学校教育の質および教師力のさらなる向上、地域における教育の魅力化を目指し、「町村、校種を超えた地域における新しい教育」に連携して取り組んでいます。（福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会事業）



小学校絆づくり交流会



中高生交流会

取組事例紹介

「ふるさと創造学」と「ふるさと創造学サミット」

「ふるさと創造学」は、双葉郡内各校で総合的な学習の時間を中心に取り組んでいる、地域の「ひと」「もの」「こと」を題材にした探究的な学びの総称です。

「ふるさと創造学サミット」は、ふるさと創造学の取組を共有し、学びを通じた交流で地域のつながりをつくる、子どもが主体の学びあいの場で、8町村立小学校・中学校・義務教育学校、福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校、福島県立富岡支援学校の児童生徒が一堂に会し、毎年12月に開催しています。



【川内小中学園】
テーマ「川内村の仕事から考える私たちのキャリア」



【双葉南・双葉北小学校】
テーマ「20年後の双葉を考える」

町の特産品を生かした商品開発など イノベ地域ならではの経験で生徒が成長



校長
はやかわ りょういち
早川 良一 さん

震災・原発事故前、榎葉中には約250人の生徒がいましたが、今は3学年合わせて47人に減少しました。部活動は運動部が2つと総合文化部が1つだけなど、子どもたちにとってはさまざまな面で選択肢が少なくなっています。しかし、榎葉中でしかできない経験や得るものもたくさんあります。

その一つが「避難地域12市町村における小中学校教育等推進事業」を活用した「模擬会社Nalys（ナリーズ）」の活動です。総合学習の時間に町の特産品を生かした商品を生徒たちが考え、町内の企業さんの協力を得て共同開発。東京で商品を販売したり、SNSでの宣伝やチラシ作成などの広報も生徒たちが行います。専門家の先生に商品開発や販売戦略をご指導いただく機会もあり、キャリア教育とともに榎葉町の元気や全国からの復興応援に対する感謝の発信になっています。

また、「双葉郡教育復興ビジョン推進協議会」で行っている「ふるさと創造学サミット」や「双葉郡中高生交流会」なども生徒たちの成長に役立っています。町村単位ではなく地域

全体で学習や交流活動を行っているところは全国でも少なく、イノベ構想の人材育成の取り組みは非常に効果的だと思います。

生徒たちには将来、地域を支える人材になってほしいという期待ももちろんありますが、私としては世界へ羽ばたき、それぞれの場所から双葉郡や福島復興を後押しする大人になってほしいと願っています。世界で活躍するようになったときに、例えば「双葉郡中高生交流会で刺激を受けて今の自分がいます」などと話してくれたら嬉しいですね。

榎葉中や双葉郡で行っている取り組みは、少子化や人口減少など日本が抱える課題解決のモデルケースになると思います。イノベ機構の協力をいただきながら、今後も取り組みを続けたいですね。



模擬会社Nalysの東京での商品販売



校種や地域を超えた学校への支援（イノベ構想の周知）

ふくしまイノベ未来講座

ふくしまイノベ未来講座は、福島県の未来を牽引する若者たちに対して、福島イノベーション・コースト構想に関わる有識者を招聘した出前講座を開催しています。

「イノベ構想の周知」、先進的な技術等を「学ぶ機会」「福島県のポテンシャルの高さ（ワクワクする地域）を知る機会」を設け、「福島県“発”のイノベーションを創出する人材」を輩出することを目指しています。また、様々な分野の外部講師から話を聞くことで、探究学習の一助となることも目的としています。

取組事例紹介

【日本大学東北高等学校】

日本大学東北高等学校では、2日間で6分野の講座を実施。2年生106名は興味のある2講座を受講しました。講義の後に、講師から提示された課題に対してグループ単位で考え、自分たちに何が出来るかや、問題を解決するためのアイデアを出し合いました。



医療関連×長崎大学
放射線被ばくと健康影響に関するリスクコミュニケーションのワークショップ。



農林水産業×合同会社 森の人
森と人が共生出来る持続可能な社会に対する取組についてのワークショップ。

【郡山高校×慶應義塾大学】



人の気持ちを可視化する「感性アナライズ」を開発した講師を招聘し、リアルタイムでその感情がモニター出来る最新のテクノロジーに触れ、今後のキャリア形成にとって貴重な学習を行いました。

【いわき市立長倉小学校×岡山理科大学】



イノベ構想の重点分野の一つである「農林水産業」において、淡水、海水に代わる「好適環境水」を新たな飼育水として、世界で初めてベニザケの陸上養殖を成功させた先生から、最先端の養殖技術と「夢をあきらめず、チャレンジし続けることの大切さ」も学びました。

高校への支援（地域企業、高等研究機関等と連携した福島県のポテンシャルの高さを知る教育）

イノベーションを起こす人材の育成

福島県内の高等学校では、構想を担う高い志を持つ人材育成のため、企業、大学、研究機関等と連携して、最新技術、課題解決の取組等を学ぶ講義や実地研修等を行う実践的な教育プログラムを実施しています。構想を牽引するリーダー、工業・商業・農林水産業の未来を担う専門人材を育成する浜通り地域等を軸とした県内の高校を対象校（イノベ対象校）としています。その活動で得られた有用かつ実践的な取組を通じ及び会津地域の専門高校へ展開し、福島県全域で“イノベーション人材”を育てています。

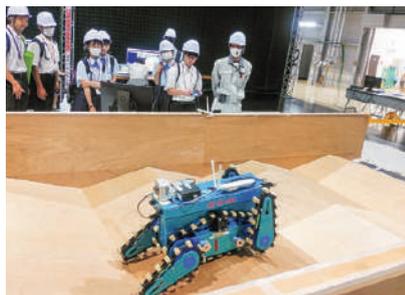
専門人材の育成

福島県内の工業高校に対し、地元企業の高い技術力、最先端技術に触れ、県内のものでづくり系企業のポテンシャルの高さを知る機会として、先進企業の技術・生産工程の施設見学、プログラミングによるロボット操作、エンジニアを招聘した技術指導などの実習を支援し、地域の産業を担う工業分野の人材育成と地元の雇用定着を促進しています。

■イノベ対象校の分野と取組事例

1. トップリーダー人材育成【構想の実現と福島県の復興・創生に貢献する高い志を持った地域を牽引する人材の育成】

磐城高等学校【廃炉・イノベーション現場見学ツアー】



原町高等学校【地域理解ワークショップ】



2. 農林水産業人材の育成【地域における革新的（スマート農業等）な農林・水産業を展開できる人材の育成】

磐城農業高等学校【地域貢献活動】



「農福連携」に関する学びの一環で、「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」に参加し、有機農法で栽培した綿花の収穫を体験しました。

地域の垣根を越えた連携【ジャムプロジェクト】



「ジャムプロジェクト」は食品科学系学科を有する福島県内の高校が連携し、福島県の「農産物の美味しさ」「食の安全」を発信すること等を目的とした共同学習プロジェクトです。また、6次化産業やマーケティングについての講話や、ジャム製造の技術向上のための意見交換会なども行いながら福島県の「食の魅力」についても学んでいます。

3. 工業人材の育成【ロボットやエネルギー分野等、構想が目指す産業等において即戦力となる工業人材の育成】

勿来工業高等学校【プログラミング学習】



スクラッチ系のプログラミング言語を使ってロボット制御の学習に取り組んでいます。

4. 商業人材の育成【マーケティングの有識者におけるワークショップ等を通じた、福島県産品の県内外への展開学習】

平商業高等学校【地元企業との商品開発】



地元スーパーとの商品開発に取り組み、改良を重ねた商品をスーパーで販売しました。

高等教育機関への支援

2019年度より、福島県内の大学、高専、テクノアカデミー等へプログラム（企業見学等）の一部を水平展開しています。イノベ構想を知り、構想に参画する意欲を醸成し、また、イノベ地域を含めたものづくり系の地元企業、研究機関等への見学、講演を通じて、イノベ構想の実現、地元の産業を支える人材の育成に取り組んでいます。

大学等の教育研究活動を支援

「復興知」事業

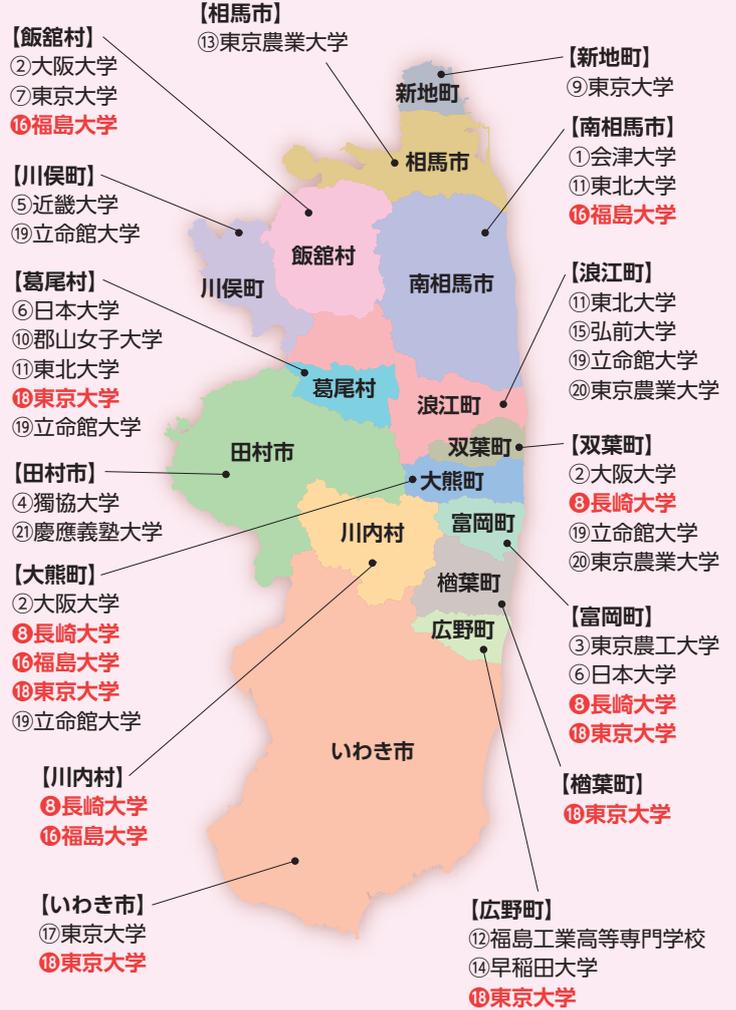
全国の大学等が有する福島復興に資する知を活用し、地域課題を解決する地域人材（イノベ構想を担う人材）の育成や浜通り地域等でのフィールド活動を通じた大学生等の人材育成を行う大学等の教育研究活動を支援する「復興知」事業を実施しています。2021年度に5カ年の事業として17大学等21事業を採択しました。



東京大学×いわき市・広野町・楡葉町・富岡町・大熊町・葛尾村
ライフステージに応じた多層的教育を通して、福島の創造的復興に貢献できる人材（重層的なスキル・知識を獲得した「ミルフィーユ型人材」）の育成に取り組んでいます。また、2023年には楡葉町と連携協力し、人材育成の基盤となる拠点「連携ミュージアム」を楡葉町に整備しました。【写真：①「楡葉町×東京大学総合研究博物館連携ミュージアム」内観 ②③見学する楡葉町の小学生】

2023年度大学等の「復興知」を活用した人材育成基盤構築事業採択大学等一覧

(赤字は重点枠)



産業集積

教育・人材育成

交流人口の拡大

情報発信

取組事例紹介

日本大学×富岡町・葛尾村



地域の課題解決のための実践的な活動や産官学民の連携を通じて、ロハスコミュニティ構築のための人材育成に取り組んでいます。その取組の1つである「交流の場づくり」では、葛尾村制100周年記念イベントとして2023年6月に葛尾中学校で行われた「能と狂言」の舞台・客席の計画と舞台設置等を行いました。

獨協大学×田村市

大学が培ってきた「外国語教育」と「環境教育」に関する資源やノウハウを活かした活動を展開し、地域社会や国際社会で活躍できる人材の育成等に取り組んでいます。2023年度は「田村市の“今”を英語で世界に発信しよう」をテーマに、市内の小学生を対象とした「子ども未来講座（全6回）」を実施しました。



「復興知」事業活動報告会

採択大学等の教育研究活動を広く発信する「復興知」事業活動報告会を開催しています。2023年度は楡葉町で開催し、ポスターセッション、代表校による活動報告等を行いました。





EXPANSION OF EXCHANGE POPULATION

交流人口の拡大

イノベ地域外から企業や人材を呼び込み、構想や浜通り地域等に様々なかたちで関わっていただくための交流人口・関係人口拡大に取り組んでいます。

地域価値向上に向けたブラッシュアップ事業

イノベ構想に共感し、浜通り地域等との絆を結んでいただくため、地域で活躍する企業・団体等と連携し、企業や若者を呼び込む様々な交流事業を実施しています。

浜通りの名産品開発と関係人口づくり事業

首都圏等の方々と一緒に、イノベ地域の畑で農業体験と名産品の開発を行いました。また、双葉町タウンツアー、ワークショップによりイノベ地域外の人々との交流・関係人口拡大について意見交換を行いました。

※事業実施団体：MYSH合同会社



オーダーメイド視察

訪問者のニーズに合わせたオーダーメイドの視察

浜通り地域等における様々な活動に意欲を持つ企業・教育研究機関・団体や、新たな事業展開・企業進出を検討している企業などを対象に、浜通り地域等の最先端技術の開発研究拠点や様々な施設・企業などへの視察の相談や調整を行っています。



大学等と連携した次世代人材向け情報発信

イノベ構想への関心を広げる出前講義の実施

大学生等にイノベ構想の意義を伝えるとともに、イノベ地域で先進的な事業に取り組む企業や、強い使命感を持って活躍する方々の話を通じて、イノベ地域で行われていることに興味を持つきっかけづくりを目的とした大学等での出前講義を、様々な大学等と連携して実施しています。



ふくしま12市町村移住支援センター

東京電力福島第一原子力発電所の事故により避難指示等の対象となった12市町村への移住・定住を促進するため、2021年7月1日に福島県が設置しました。広域連携や12市町村による移住施策の支援等を目的として、様々な事業を実施しています。

- 主な取組**
- 情報発信「知る」「働く」「起業・開業する」「住む」「支援制度」「MAGAZINE」「TOPICS」等
 - 映像コンテンツ（タイアップ動画等）や記事制作、インターネット広告
 - 移住体験ツアー、移住セミナー、各種イベント ● 移住相談 ● 移住求人（求人の発掘及び転職フェア等に出展）

取組事例紹介

福島12市町村への移住関心層を具体的な行動につなげるため、移住関連情報を掲載したポータルサイト「未来ワークふくしま」の運営やタイアップ動画などの映像コンテンツを制作し、移住関連情報を広く発信しております。また、現地での体験・交流を目的とした移住体験ツアー、福島12市町村で活

躍する先輩移住者などに移住後の生活や活動などをお話いただく移住セミナーの開催、対面や電話、オンライン等による移住相談の対応、移住関心者の現地視察の際に活用できる「ふくしま12市町村移住支援交通費等補助金」の運用など、様々な支援も行っています。

● ポータルサイト「未来ワークふくしま」



● ふくしま12市町村移住モニターツアー



● ふくしま12市町村移住セミナー



● 映像コンテンツによる情報発信



● ふくしま12市町村への移住相談



● ふくしま12市町村移住支援交通費等補助金



ふくしま12市町村移住支援センター

〒979-1111 福島県双葉郡富岡町小浜553番地2 福島県富岡合同庁舎2階

☎ 0240-23-4315 (代表) **移住相談ダイヤル** 0800-800-3305 (受付時間：8:30～17:00) ※土日祝日・年末年始除く

🌐 <http://mirai-work.life> ✉ ijyu-shien@fipo.or.jp





DISSEMINATION OF INFORMATION

情報発信

構想の認知度を向上させ、参画を促進するためのさまざまな情報発信を行っています。

地域向け情報発信の実施（見える化セミナー）

福島県民の皆様に構想を身近に感じていただけるようセミナーを開催しました。

「みんなで学ぼう！福島イノベ構想ってなあに？」 （新地町・郡山市）

新地開催日：2023年10月9日（月・祝）
郡山開催日：2023年12月23日（土）

小・中学生が、福島イノベ構想に関連する先端技術や先進的な取組を知ることで構想に興味を持ち、将来的に、ロボットの開発者やオペレーター等、浜通り地域等の復興を担う人材となることを期待しセミナーを開催しました。



「見える化セミナーinいいたて」 （飯舘村）

開催日：2024年1月27日（土）

飯舘村で行われている農業に関する発表を通じ、イノベ構想が身近であることを感じていただき、登壇者の皆様でわくわくする楽しいふるさとに向けて意見交換を行いました。

テーマ「わくわくする楽しいふるさと飯舘村を目指して」

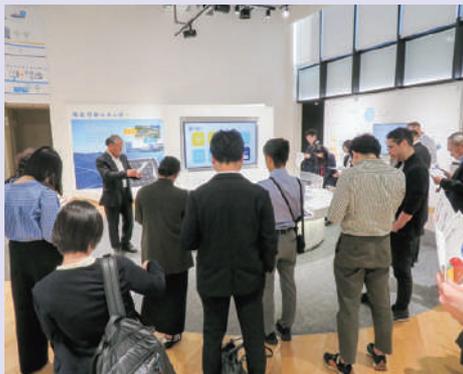


海外メディア等招聘ツアー

国内外に向けた情報発信

開催日：2023年11月8日（水）
9日（木）

福島県浜通り地域等の現状や、福島イノベ構想の取組等を海外の方々に情報発信していただくことを目的に、メディアや商工業団体、スタートアップ支援組織等を対象とした視察ツアーを実施しています。



福島県内外のイベントで 福島イノベ構想の取組を紹介

各種イベントへの出展

福島イノベ構想の認知度向上や交流人口の拡大などを目的に、首都圏や県内各地で催される各種イベント等にブースを出展しています。ブースではイノベ構想の取組を紹介する動画の放映やパネル展示、パンフレットの配布などの情報発信を行っています。また、子どもたちを対象としたプログラミング学習ツールの体験会なども実施し、ロボットやプログラミングに興味を持っていただくための取組も行っています。



福島イノベーション・コースト構想シンポジウム

シンポジウムの開催

福島イノベ構想の進捗状況を知っていただき、今後の取組の方向性について共に考える場としてシンポジウムを年1回開催しています。2023年度は、広野町の福島県立ふたば未来学園を会場として「イノベ構想が拓く未来、惹きつける地域に向けて」をテーマに開催しました。

開催日：2023年12月9日（土）



東日本旅客鉄道株式会社 顧問
清野 智 氏

福島イノベ機構公式
YouTube
福島イノベーション・コースト
構想シンポジウム



基調講演は、イノベ機構の参与でもある、東日本旅客鉄道株式会社顧問清野智氏をお招きし、『交流創造による福島イノベーションコースト地域の未来』をテーマに、イノベ構想の可能性を信じ、情熱を持って挑戦することの重要性を講演していただきました。事例紹介では、現在イノベ地域でイノベ機構及びイノベ企業等が実施している様々な取組について発表がありました。トークセッションでは「惹きつける地域」をキーワードに、イノベ構想の更なる飛躍のために必要な取組などについて、5名のゲストスピーカーがモデレーターの進行で意見交換をしました。シンポジウムは会場での参加のほか、Web配信によるオンライン参加も可能とし、多くの方が参加されました。



AstroX株式会社 代表取締役
小田 翔武 氏



MYSH合同会社 南相馬支社長
後藤 彩 氏

各種情報（WEBサイト、SNS）の発信

イノベ構想に対する理解醸成及び地元企業の参入を促進するためセミナーを開催したり、幅広い年齢層に構想を理解していただくため、構想ポータルサイトやHama Tech Channelや動画、各種SNS等でわかりやすく情報発信を行っています。



福島イノベ構想参画促進セミナー



福島イノベ構想PR動画「かわるぞ！未来。」

公式HP	Instagram	Facebook	Twitter	YouTube	Hama Tech Channel

<p>Facebook フェイスブック</p>	<p>Instagram インスタグラム</p>
-------------------------	--------------------------

Hama Tech Channelとは
「世界を変える、福島のチカラ」のもと、山積する社会課題に立ち向かい、豊かな未来を切り拓くリーダーとテクノロジーにフォーカス。
「社会を良くする」力強い変革を応援する、福島発・未来共創型メディアです。

産業集積

教育・人材育成

交流人口の拡大

情報発信



DISSEMINATION OF INFORMATION

情報発信

東日本大震災・原子力災害伝承館（双葉町）

福島県双葉町にある県立の施設で、2020年9月20日に開館しました。福島で起きた地震、津波、東京電力福島第一原発事故という未曾有（みぞう）の複合災害の実態や、復興に向けた歩みを展示するとともに、被災した住民による語り部講話を1日4回実施しています。展示見学に加え、研修プログラムや調査・研究を通じ、防災・減災に向けた教訓を国内外へ発信し、未来へつないでいきます。



津波で押しつぶされた消防車



東日本大震災・原子力災害伝承館

〒979-1401 福島県双葉郡双葉町大字中野字高田39

☎ 0240-23-4402 [開館時間] 9:00～17:00 (最終入館16:30) [休館日] 火曜日 (火曜日の場合は翌平日)・年末年始 (12/29～1/3)

🌐 <http://www.fipo.or.jp/lore/> ✉ archive@fipo.or.jp

展示

地震、津波、原発事故の被害を伝える資料約200点を展示しています。津波で基礎ごと流された郵便ポストや事故を起こした福島第一原発の精巧なジオラマ、原子力災害の過酷な避難を伝える資料などがあり、未曾有の複合災害への理解を深めることができます。



プロローグ

展示の導入として、原発建設から震災、原発事故の発生、復興や廃炉について、実際の映像やアニメーションを交えて7面の大型スクリーンに映します。福島県出身の俳優、西田敏行さんがナレーターを務めます。



災害の始まり

震災前の暮らしから地震と津波、原発事故発生までを時系列で理解できます。地震、津波、原発事故の実際の映像や被災の実物資料などを展示しています。



原子力発電所事故直後の対応

原発事故発生から一週間の実像などを伝える大画面の映像や、入院患者らの過酷な避難についての展示により、当時の緊迫した状況を知ることができます。



県民の想い

震災と原発事故によって奪われた平穏な暮らしに関する証言映像と思い出の品々を展示しており、様々な県民の想いを自分事として感じることができます。



長期化する原子力災害の影響

除染や風評被害、長期避難など、現在も続く原子力災害の影響について知ることができます。視覚的に分かる資料や専門家の解説映像などを展示しています。



復興への挑戦

復興に挑戦する福島県の姿を紹介しています。廃炉作業の解説、福島イノベーション・コースト構想、県民によるチャレンジの展示などがあります。

【企画展】2023年度は「原子力災害」をテーマに開催しました

「モノが語る原子力災害」(7月14日～11月13日)

約29万点の収蔵品の中から、初公開のモノ資料を多数活用し、原子力災害を深掘りしました。東京電力福島第一原発建設当時から事故直後の様子、放射線に関する基礎知識、原子力損害賠償など幅広いテーマを取り上げ、実物資料や写真パネル、動画など約140点を展示しました。

原発事故に伴う帰還困難区域への立ち入り禁止を示す看板や、原発事故の対応拠点のオフサイトセンターに残されたホワイトボードといった実物の資料が、原子力災害の実像を示す展示物として注目を集めました。



「人が語る原子力災害」(11月23日～2024年3月25日)

本企画展のために原発事故による避難を経験した11名にインタビューを行いました。原子力災害に関する個人の体験を動画や写真、思い出の品などの実物資料、当時の気持ちや状況を表現した「語りパネル」にして幅広く紹介しました。第1部の「モノ」資料とは違った視点で原子力災害を特集しました。会期中は前半と後半とで展示替えを行い、2024年1月24日からの会期後半には、福島県出身で若手俳優の富田望生(みゆ)さん、横田龍儀(りゅうぎ)さんの証言映像なども展示しました。



【出張展】2023年度は神戸市で開催しました

「東日本大震災と福島の経験を伝える」(10月3日～11月26日)

神戸市の「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」で出張展「東日本大震災と福島の経験を伝える」を開催しました。関西圏では初の展示会となりました。

西日本では南海トラフ巨大地震が懸念される中で、福島における地震、津波、原子力災害による被害の実態と、被災地の「今」を伝え、経験と教訓を発信しました。

被害の甚大さを物語る写真に加え、津波漂着物、原発事故による避難後に校舎に残された下駄箱と靴、帰還困難区域を示す看板などの実物資料を展示しました。



「出張語り部講話」(11月5日)



11月5日の津波防災の日に合わせて、出張展会場で語り部講話を実施しました。津波から避難する際の状況や、防災の教訓、長期化する原子力災害の影響を語り続けていくことの重要性などを訴えました。神戸の語り部との交流も行いました。

調査研究・研修

【調査・研究事業】

これまで様々な分野で福島に係る研究を行ってきた高村昇館長及び上級研究員3名に常任研究員5名を加えた体制で研究を進めています。原子力災害の発生から復興過程に至るまでの実態を俯瞰(ふかん)的、体系的に研究し、福島における原子力災害の教訓や現状を発信していきます。

【研修】

津波や原発事故の被災地をバスで巡る「フィールドワーク」や、被災した語り部の生の声を聴く「研修語り部講話」を通して、福島県で起きた未曾有の複合災害の実事や復興の現状・課題を見て感じ、学ぶことができます。また、高村昇館長や上級研究員が講師となり、放射線被ばくと健康影響、原子力防災など、より専門的な内容を学べる「専門講座」を実施しています。



専門講座で講師を務める高村館長(右)

館内語り部講話



当館では開館日に毎日、震災や原子力災害を経験した住民らの生の声を聴くことができます。1日4回(午前10時～、11時15分～、午後1時15分～、2時30分～)各40分の語り部講話を実施しています。登録している約30名の語り部の中から、原則1日2名(午前と午後1名ずつ)が担当します。

福島イノベーション・コースト構想推進機構

国家プロジェクトである「福島イノベーション・コースト構想」を推進する中核的な機関として、福島県が設立した「福島イノベーション・コースト構想推進機構」。私たちは福島復興再生特別措置法の「福島復興再生計画」に基づき、みなさまとともに様々な取組を行い世界に誇れるふくしまの未来を実現していきます。

福島イノベーション・コースト構想推進機構の 主な取組

拠点施設の管理運営

- 福島ロボットテストフィールドの運営
- 東日本大震災・原子力災害伝承館の運営
- 拠点の利活用について県内外にPR



東日本大震災・原子力災害伝承館

情報発信

- 県民等への構想のわかりやすい情報発信
- 県外からの呼び込みに向けた構想の魅力発信



シンポジウム

産業集積・ビジネスマッチング

- 浜通り地域等への企業誘致
- 進出企業と地元企業とのマッチング
- 企業の新ビジネスの立ち上げ支援
- 民間企業等の農業参入支援



廃炉スタディツアー

教育・人材育成

- イノベ人材の裾野の拡大（小・中学校）
- 福島のポテンシャルの高さを知る（高等学校）
- 福島の復興に資する「知」の習得（大学等）
- イノベ構想の周知（福島県全域）



小学生向けの食育活動を郡山女子大学と連携して実施（東京農業大学×相馬市）

交流人口の拡大

- 浜通り地域等の各拠点への来訪者呼び込み
- 浜通り地域等への移住定住促進
- ふくしま12市町村移住支援センター運営



大学等での出前講義

福島イノベーション・コースト構想及び福島イノベーション・コースト構想推進機構の経緯

2014年1月

浜通り地域の新たな産業基盤の構築や広域的視点でのまちづくりを目指し、福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想研究会を設置

2014年6月

福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想研究会報告書取りまとめ

2017年5月

福島復興再生特別措置法改正法の成立、福島イノベーション・コースト構想及び分科会を法的に位置付け

2017年7月

福島イノベーション・コースト構想推進機構（福島イノベ機構）設立

2019年4月

福島イノベ機構 福島ロボットテストフィールドの指定管理を受託

2019年12月

「福島イノベーション・コースト構想を基軸とした産業発展の青写真」を取りまとめ、構想を具体化（復興庁・経産省・県）

2020年4月

福島イノベ機構 東日本大震災・原子力災害伝承館の指定管理を受託（9月開館）

2021年6月

福島イノベ機構 ふくしま12市町村移住支援センターの運営委託を受託（7月開所）

福島国際研究教育機構（F-REI） Fukushima Institute for Research, Education and Innovation

F-REIは、福島をはじめ東北の復興を実現するとともに、日本の科学技術力・産業競争力の強化に貢献する、世界に冠たる「創造的復興の中核拠点」として、国が浪江町に設立した法人です（2023年4月設立）。今後、研究者の確保と施設整備が進められます。F-REIは、福島イノベーション・コースト構想を更に発展させる役割も期待されています。

F-REIが取り組む5分野の研究開発

① ロボット

② 農林水産業

③ エネルギー

④ 放射線科学・創薬医療、放射線の産業利用

⑤ 原子力災害に関するデータや知見の集積・発信



福島イノベ機構

公益財団法人

福島イノベーション・コースト構想推進機構

〒960-8043 福島県福島市中町1-19 中町ビル6階 <https://www.fipo.or.jp>

パンフレットに関する
ご意見をお願いいたします



2024.3 協力：福島県・復興庁・経済産業省

※本パンフレット掲載の情報は、2024年2月29日現在のものです。